

# 派遣留学生帰国報告書

\* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2019年5月
所属学科・専攻	国際教養学科

## 1. 留学先について

留学先大学名	Mhidol University International College							
留学先所属学部等	International Hospitality and Tourism							
留学期間	出発日	2018.9.1	入学日	2018.9.4	修了日	2019.4.5	帰国日	2019.4.14
住居	大学(紹介)の寮・アパート	<input type="radio"/>	民間アパート	<input type="radio"/>	その他( )			
	通学時間	10分				On campus		
	通学方法	アパートのシャトルサービス、バイクタクシー、バス						
	居室スペース	<input type="radio"/>	個室	( )	人部屋	その他( )		
	共有スペース	<input type="radio"/>	完全個室	キッチン	トイレ	バス	リビング	その他( )
食事	自炊	%	学食	50 %	外食	50 %	その他	( ) %
保険	海外旅行保険(名称)	<a href="#">t@bihoたびほ:ジェアイ損害火災保険</a>						
	派遣先大学指定の保険(名称)							<input type="checkbox"/> 強制加入
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田 ⇄		バンコク(飛行機)			⇄ サラヤ(BTS、タクシー)		

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	100万 円								
出どころ									
自費	<input type="radio"/>	貯金	円		アルバイト	20万 円		その他	円
援助	<input type="radio"/>	両親	80万 円		家族・親戚	円		その他	円
奨学金		JASSO	円		その他名称( )				円
その他		千葉大学助成金	円		その他( )				円

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input type="radio"/>	現金	10万 円	その他( )	円
留学中		海外送金	<input type="radio"/>	キャッシング	その他( )

## 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	現金
住居にかかった費用	現金
その他	

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)			11万	円
海外旅行保険			20万	円
OSSMA			16万	円
査証・在留許可証			2万	円
住居	バーツ	8000 × 8 = 64000	20万	円
食費	バーツ	10000 × 8 = 80000	25万	円
通学に要する交通費	バーツ	2,000	0.5万	円
教科書、教材費				円
その他大学に支払った経費				円
光熱費	バーツ	500 × 8 = 4000	1万	円
その他 ( 旅行費 )	バーツ	30,000	10万	円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定申請の有無		
			有	<input type="radio"/>	無
1 Elementary Thai 1	正規	4	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	無
2 Elementary Thai 2	正規	4	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	無
3 Introduction to hospitality and tourism	正規	4	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	無
4 Management and Organizational Behavior	正規	4	<input type="checkbox"/>	<input type="radio"/>	無

5 Consumer Behavior	正規	4		有	○	無
6 Business Management	正規	4		有	○	無
7				有		無
8				有		無
9				有		無
10				有		無

### 3-1. 授業科目の選択、登録方法

授業科目は入学手続きする際に登録になります。シラバスがぎりぎりになるまで更新されないので、前年のシラバスを参考に申し込むしかありません。しかし、再度登録を要求されるのでそのときはシラバスを見て登録しました。このときが本登録となります。シラバスは授業科目と日時が載っている位なので、全く参考になりません。先輩を頼るなり直接メールするなり自分から聞きに行かなければなりません。登録はオンラインになります。

### 3-2. 授業内容、方法に関して

授業は一コマ2時間で週二回あります。授業は月曜日から土曜日まで開講されています。授業では、ほとんどが講義形式ですが、グループワークが課されます。授業自体は2時間ですが、課外活動で多くの時間を必要とします。オンラインで作業することもあれば、直接集まることもありました。中間テスト、期末テストがあるほか、隔週で確認テストがある授業もあります。

### 3-3. 語学力について

授業は全て英語で行われるので、英語をある程度理解する力は求められます。しかし、応募要項にもある通り、IELTS総合スコア6.0、writing6.0のスコアが取れるようであれば支障なく生活できると思います。先生方も英語が苦手だということを伝えれば、配慮してくれますし、質問にも丁寧に答えてくれますので安心して学べるいい大学だと思います。また、タイ語に関してですが、大学内での生活はほとんど問題なく過ごせます。大学内を出ると、都会ではないこともあり英語は通じないことは少なくありません。その場合は、タイ語を話せると便利ですが、さして問題なく過ごせるでしょう。タイ語を話せる学生に手伝ってもらったり、大学でタイ語の授業を取ることも出来るので、新しい言語を学べる良い機会を得られると感じられるほどです。

### 3-4. 図書館など学内施設について

MUICには数多くの施設があります。始めに、図書館ですが、テスト期間以外は全く人がいません。蔵書の本数は豊富とは言えませんが、大学の学習を補う程度なら問題ありません。私は、主にMU本学の図書館か、アパートの図書館を使用していたので、本を借りるのみでした。学習スペースとしてはco-working spaceを使用していました。くつろげるソファやグループワークをするための個室、塾の自習室のような学習スペースもあります。Computer laboでは、デスクトップを使用できるので、印刷物やパワーポイントを使用するときは活用していました。また、千葉大学オフィスでは、デスクトップも2台あり活用させてもらいました。

### 3-5. その他

## 4. 生活面

### 4-1. 住居について

私が住むThe Septemberは多くの留学生が暮らす soi tangshinという通りに面しており、周りにはレストランが多く集まっています。しかし、土日はほとんどのお店が閉まってしまうので、ご飯を食べに出かける必要があります。The Septemberは他のアパートと比べて若干高めに設定されている分、設備は充実していました。図書館と小さめのフィットネスルーム、ルーフトッププールがあり、よく使用していました。洗濯機、乾燥機も共用であります。また、一階にランドリーがあり、一着60円ほどでアイロンがけまでやってくれるところもあります。管理人さんは英語が話せる人もいて、何か問題があったときは気軽に尋ねることが出来ます。

### 4-2. 食生活について

サラヤでは、ほとんどタイ料理を食べていました。一食200円ほどで食べる事が出来るので、節約することが出来ます。バンコクに出かけるときは、日本食を食べることが多くそのときばかりは値を張りました。また、タイでは、野菜を食べられることが少なく、ベジタリアンの人はバンコクまで出かけてご飯を食べるということも少なくありませんでした。基本、生野菜を食べられるお店はなく、私もサラダが食べたいときはバンコクに出かけました。バンコクにでかければ、基本何でもあるので食に困ることは少ないでしょう。

### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

私はtrueというsim会社を使っていましたが、サラヤ近辺は全く繋がりません。また、アパートにもWi-Fiがりましたが、全く役に立ちませんでした。なので、大学に行って作業を行うか、ダウンロードして課題をしました。友達はAISというsimを使っていましたが、こちらの方が繋がるので、AISをおすすめします。一年ほどステイする人は、自分でWi-Fiを契約して使っている人もいたので、タイのインターネット事情は決して良いとは言えないでしょう。

### 4-4. 服装について

大学指定の制服があるので、私服はほとんど着ていません。また、年中暑いのでほとんどジャージで過ごしていました。大学では、制服出ないと出席させてもらえなかったり、テストを受けられなかったりするので、制服は必須です。また、学内は冷房がとても効いているので、私はセーターをいつも持ち歩いています。

## 4-5. 健康管理について

健康管理に関してはほとんど何もしていません。毎日、サプリメントを飲んでいた他は、運動をよくしていたので、大きい病気になることはありませんでした。ただ、大気汚染がひどいことが多々あり、大学が休みになることもあったので、マスクは持って行った方がいいかもしれません。日本の大気汚染とは違い、30分外を歩くだけでも体調が悪くなるほどで、屋外でのスポーツ禁止にもなっていました。少し体調が優れない時は、大学にあるFirst Aidで薬をもらっていました。MUICの学生なら誰でも利用可能で、無料で薬を処方してくれます。待ち時間は全くなく、重傷であると判断された場合は、マヒドン大学の病院に紹介してくれるので、十分でした。

## 4-6. 保険、OSSMAの利用について

一回も利用したことがないのでなんとも言えません。OSSMAは高額な上に全く使わないので、本当にやめてほしいです。

## 4-7. 課外活動について

大学で課させるフィールドワークでは、五つ星ホテルでの研修や高級デパートにアポイントを取ってインタビューを行いました。私個人としては、JTB Thailandでの研修やAfter schoolでのインターン、スラム街の幼稚園に訪問したりと多くの経験をしました。また、タイ日本人学生会で多くのイベントに参加し、現地で働く経営者の話を聞くことが出来ました。

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

他大学の学生と仲良くなることもあり、日本語を勉強中のタイ人の人やタイで働いている日本人の人とご飯に行くことがありました。マヒドン大学はバンコクから離れているので、あまり学外のコミュニティと関わることは自然と少なくなりがちです。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

日本語の本(読書が好きなので)、筆記用具(タイの製品は質が悪いです)

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

私服(制服しか着ません)、靴(すぐ汚れるのでタイの安物で十分です)、虫除けスプレー(日本製品では効きません)

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

この部分は私が一番悩んだところですが、タイ人の交友関係は密接です。返信は異常に早く、常に繋がっていたいという欲求がとても強いです。連絡手段もテキストではなく電話がかかってくるのが多く気が滅入ります。一人の時間がほしい人は苦勞することでしょう。中学生のような階級的交友関係を形成することが多く、いつも同じグループで行動することが多く、一度入ると抜け出せません。なので、私は留学生といることが自然と増え、タイ人の友達は本当に少数しか出来ませんでした。

## 旅行

【タイ・チェンマイ(観光)】2018.11(2日間)、3万円【タイ・パタヤ(観光)】2019.4(2日間)、2万円【フィリピン・セブ(観光)】2019.4(一週間)5万円

その他 \* 気分転換やストレス発散法など。

気分転換によくフィットネスに行っていました。食生活が全く違うので、健康維持は大変ですが、リフレッシュもかねてフィットネスには、よく行きました。また、バスケットボールやバドミントンを友達とやったりもしていました。

## 5. その他

## 5-1. 留学先大学について

MUICはタイの国立大学でありながら、多くの留学生を受け入れていて国際色豊かな大学です。留学生支援室の方々も気さくな人が多く、疑問や困ったことがあれば何でも対応してくれます。また、キャンパス内に千葉大学のオフィスがあり、千葉大学からもプログラムで学生がよく訪れるほど繋がりが深いので、安心して過ごすことが出来ます。大学周辺は都会ではないので、夜中でも出歩けるほど安全な場所です。初めての留学先としてはハードルが高いように思えるかもしれませんが、予算面でも安全面でもとても良い学校です。

## 5-2. 留学希望者へのアドバイス

大学では、英語で全てが行われますが、町中ではもちろんタイ語でコミュニケーションします。なので、英語を学びながらタイ語も勉強できるお得な場所です。先生もタイ語ネイティブでありながら長期留学経験者の方がほとんどなので、心配することはありません。ただし、やはり訛りが強い先生もいて聞き取りづらいこともあります。このような英語を学ぶことはこれからの社会においてとても大切なことなので、損することはないでしょう。バンコクには、多くの日系企業があり自分から行動することで、様々な話を聞くことが出来たりと経験を得られる場が豊富です。

## 5-3. 留学を終えて

今まで短期留学しか行ったことがなかったので、長い間海外に行くという経験は初めてで楽しみでした。8ヶ月期間は短くはありますが、この期間に多くのことを得ようと奮起していたのを覚えています。生活を始めてからは目新しことばかりで、毎日が忙しかったです。しかし、今思えばそれは長い観光だった気がします。海外に住むということは、毎日が冒険であってはなりません。もちろん、留学期間中に多くのことを得ようと積極的になれなければ留学が充実したものになり得ませんが、海外に住むということは、その土地に根付き、自分の居場所を獲得することです。冒険とは、まだ見ぬ世界を求めて開拓することを意味しますが、留学は旅行ではなく経験、さらに言えば勉強なのです。そして、それはある意味では我慢すると言うことを意味します。本当に、留学に行って良かったと私が感じたところは、様々なことに挑戦したことではなく、大学で勉強させてもらった経験です。なので、是非留学を考えている方は、観光ではない留学になることを目指してほしいと思います。